



Camelot最後の守護者 *The Last Defender of Camelot* (1980) ロジャー・ゼラズニイ (浅倉久志他訳) 早川書房 (文庫) (4/30刊・¥520)

ゼラズニイの自選作品集。六二年の処女作から、七九年のオムニ掲載作まで、十六作品を収録している。ただし、日本版では二中篇(『地獄のハイウェイ』と『ドリームマスタ』の原型)が省かれ、別の中篇と差し換えられている。

ゼラズニイは、もともと短篇作家ではない。本書収録の、ほぼ二十年近くにわたる短篇は、表現力やスタイルの方が目立ち、物語としての印象は小粒になる。といって、大長篇作家かというところ、そうでもなく、中長篇クラス作品が一番優れている。シリーズ物のアンバールも、他の作家のようにやたら部厚くならないうところが特長だろう。

やはり「フロストとベータ」や「心はつめたい墓場」(日本版オリジナル)など、中篇がいい。人間とは何かを追求したあげく、ついに人間を創造してしまう「フロスト——」は、スタイルと物語性が、ちょうどうまく融合している。このクラスの作品では、ゼラズニイのベストに入る。「心は——」は、やや冗長な展開ながら、冷凍睡眠を繰り返し未来に渡っていく「パーティ・セット」の人々を描いた佳品。全般的にまとまっている。

(俊)